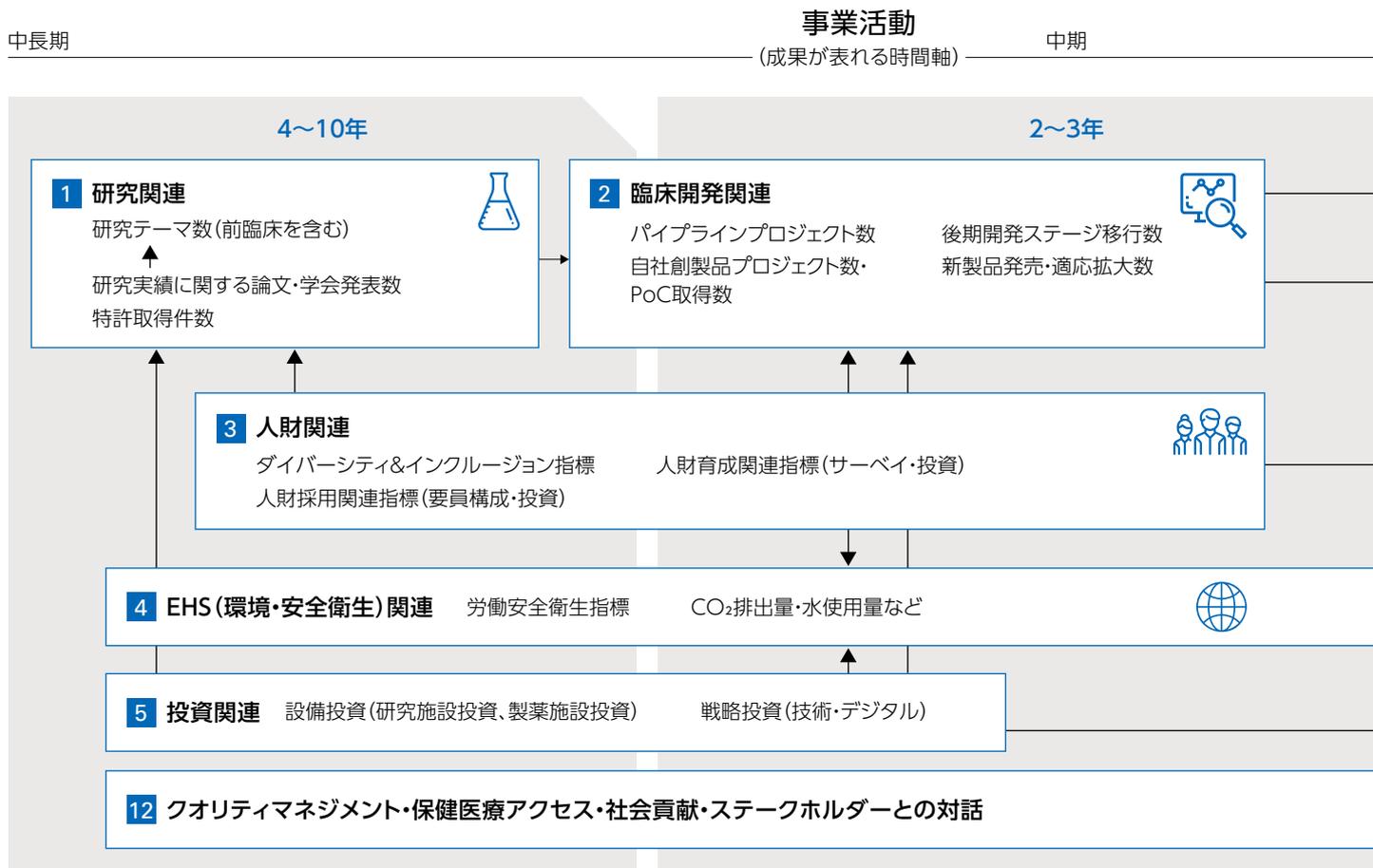


指標の関係性



	プレ財務指標の種類 (1~6)		非開示指標
1 研究関連 研究テーマ数(前臨床を含む) 研究実績に関する論文・学会発表数 特許取得件数	2 臨床開発関連 パイラインプロジェクト数 自社創製品プロジェクト数・PoC取得数 後期開発ステージ移行数 新製品発売・適応拡大数	3 人財関連 ダイバーシティ&インクルージョン指標 人財採用関連指標(要員構成・投資) 人財育成関連指標(サーベイ・投資)	4 EHS(環境・安全衛生)関連 労働安全衛生指標 CO ₂ 排出量・水使用量など
5 投資関連 設備投資(研究施設投資、製薬施設投資) 戦略投資(技術・デジタル)	12 クオリティマネジメント・保健医療アクセス・社会貢献・ステークホルダーとの対話		
全社および各部門における管理指標	新製品発売・適応拡大数 後期開発ステージ移行数 自社創製品プロジェクト数・PoC取得数 ダイバーシティ&インクルージョン指標 人財育成関連指標(サーベイ・投資)*1 CO ₂ 排出量・水使用量など	設備投資(研究施設投資、製薬施設投資) 戦略投資(技術・デジタル) がんゲノム医療への貢献度 主要領域における売上シェア/顧客満足度*1 MR生産性	人財採用関連指標(要員構成・投資) プロセス改革/働き方改革の実現に関する指標 全社要員生産性
モニタリング指標	研究実績に関する論文・学会発表数 特許取得件数	パイラインプロジェクト数 労働安全衛生指標*1	研究テーマ数(前臨床を含む)*2

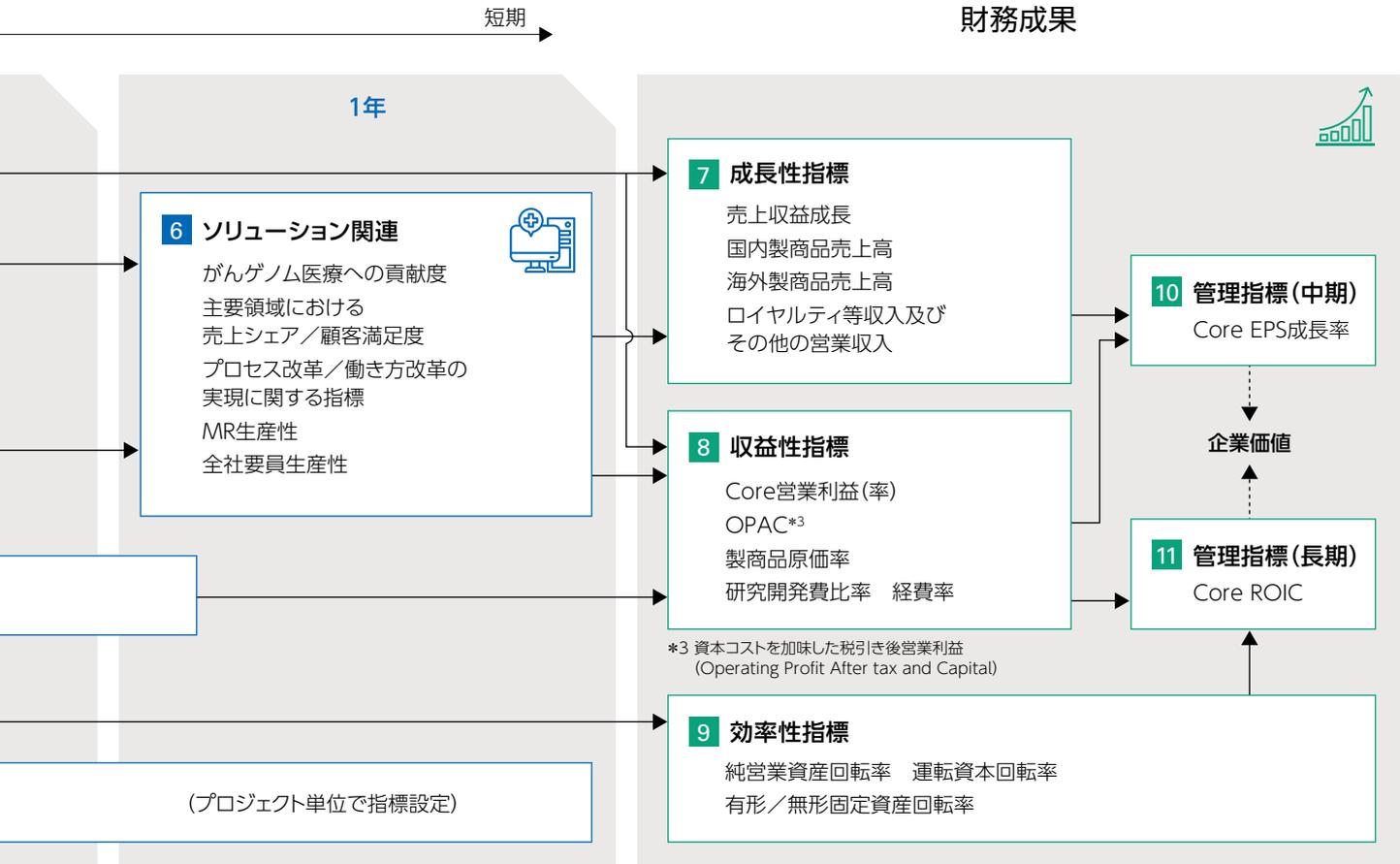
*1 一部非開示

*2 抗体エンジニアリング技術を適用した研究プロジェクト数のみ開示

中外製薬では、企業価値向上につながる財務成果と、これらの財務成果に影響をもたらす事業活動の重要指標を、それぞれの成果が表れる時間軸を踏まえて上図の関係性でとらえています。また、これらの指標は、目標値を設定してPDCAを回していく「管理指標」と、計画や定性目標の設定をもとに進捗を管理していく「モニタリング指標」に分けられます。

1 研究関連 2 臨床開発関連

研究テーマの成果が業績に表れるのは通常4~10年後といった中長期で、技術基盤や病態研究などでは、これ以上の時間軸でマネジメントしていくことが必要です。また、こうした研究成果が表れる開発パイプラインは、売上・利益や企業価値の創出を決定づけるため、プロジェクトの数や質、進捗状況を重点的に管理しています。



3 人財関連

中外製薬では、イノベーションを起こすのは人財であることから、人財こそ最も重要な資産と認識し、すべての成果は、人財の採用・配置・育成、組織風土などによって変わるとの強い信念があります。そのため、社員意識調査や人財マネジメントの各種指標などで、詳細な目標を設定しています。

4 EHS(環境・安全衛生)関連 **5 投資関連**

事業活動の基盤であるEHSは、関連するリスクも多大であり、中長期的な視座での管理が不可欠です。また、革新的新薬創製に向けた研究基盤や製薬機能、新規技術・デジタル関連の投資も成果創出には不可欠な項目となります。

6 ソリューション関連

短期視点(1年)で成果を生む活動指標として、戦略の完遂に向けモニタリングしています。なかでも主要領域における売上シェア、生産性にかかわる指標は財務成果に影響する重要な指標ととらえています。

7 成長性指標 **8 収益性指標** **9 効率性指標**

成長性指標は、製品・サービスの貢献価値を測定する指標であり、特に海外収益といった世界の患者さんへの貢献が重要な観点となっています。収益性指標では、営業利益額・率を最も重視するとともにコスト構造にかかわる指標は重要です。効率性指標として運転資本や固定資産の回転率を重点的にマネジメントしています。

10 管理指標(中期) **11 管理指標(長期)**

企業価値向上に向けては、本業における売上高利益率およびその絶対額の成長が最も重要です。そのため、中期の社内管理KPIとして、Core EPS成長率を定めるとともに、10年以上の視座で事業活動を展開していく医薬品ビジネスにおいて、長期にわたる投資効率の計量が不可欠との考えのもとCore ROICを重点的に管理しています。

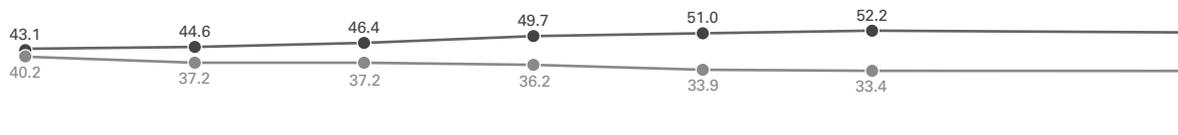
財務・プレ財務ハイライト 国際会計基準(IFRS)

中外製薬株式会社および連結子会社／12月31日に終了した各会計年度

財務関連(Coreベース)

業績推移

- 製商品原価率(%)
- 経費率(%)



売上収益(億円)

- ロイヤルティ等収入及びその他の営業収入
- 海外製商品売上高
- タミフル
- 国内製商品売上高(タミフルを除く)*1



予算適正化

生産性向上

主要製品の国内上市時期

① エディロール
ミルセラ

① パージェタ
アクテムラ(皮下注製剤)
ボンビバ

① カドサイラ
アレセンサ

① ゼルボラフ

主要製品の海外承認時期

① アクテムラ(皮下注製剤/米国)

① アクテムラ(皮下注製剤/欧州)

① アレセンサ(米国)

① 自社創製品 *1 2017年以降は、国内製商品売上高に「タミフル」を含む

ロイヤルティ及びプロフィットシェア収入/その他の営業収入(億円)



ロイヤルティ及びプロフィットシェア収入は、自社創製品のロシュによる海外販売と連動しており、2020年は「ヘムライブラ」の海外市場浸透により大幅に増加しました。その他の営業収入は、一時的な収入により構成され、開発マイルストーンなどのイベントに依存するため、ばらつきが比較的大きい収入です。

Core営業利益/Core営業利益率(億円/%)



Core営業利益率は、低水準の経費率に加え、近年はROOI*2の増加や製商品原価率の低下に伴い、業界トップクラスとなっています。2021年のCore営業利益は、自社創製品「ヘムライブラ」に関するロシュからのロイヤルティ収入やロシュ向け輸出の増加などにより、5年連続の最高益更新を見込んでいます。

Core当期利益/Core EPS*3(億円/円)



1年前倒しで終了した中期経営計画IBI 21では、3年間のCore EPS年平均成長率「30%前後*4(株式分割を考慮しない場合)」を目標として掲げていました。自社創製品の国内外での成長が業績に大きく貢献した結果、2020年までの2年間で当初の目標を大きく上回る年平均49.5%と高成長を遂げることができました。

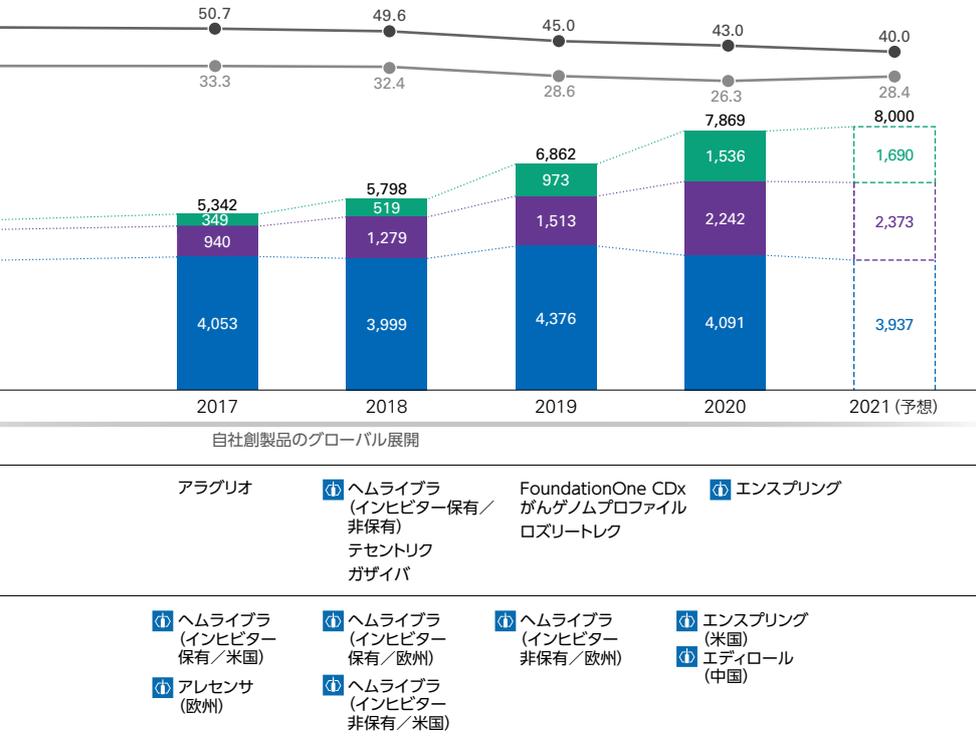
*2 ロイヤルティ等収入及びその他の営業収入

*3 2020年7月1日を効力発生日として、普通株式を1株につき3株の割合で株式分割を実施。2017年期首に株式分割が行われたと仮定して算定

*4 3年間、一定為替レートベース

*5 投下資本利益率(Return On Invested Capital)。事業活動のために投じた資金(投下資本)を使って、企業がどれだけ効率的に利益に結びつけているかを知ることができる

*6 新型コロナウイルス感染症



中外製薬は、戦略的アライアンスを締結しているロシュからの導入品増加に伴う製商品原価率の上昇を踏まえ、コスト構造を大幅に改善してきました。現在では、世界の大手製薬会社と遜色ないレベルの経費率を継続的に達成しており、高い収益性を確保しています。近年は、ロシュ導入品よりも原価率の低い自社創製グローバル品が好調に推移したことにより、製商品原価率も着実に低下しています。売上収益は、薬価改定や後発品浸透の影響により国内製商品売上高が減少したものの、自社創製品「アクテムラ」「ヘムライブラ」のロシュ向け輸出、「ヘムライブラ」に関するロイヤリティ及びプロフィットシェア収入の増加などにより、4年連続で過去最高を達成しました。2021年は、後発品浸透の影響や薬価改定により国内製商品売上高が前年を下回るものの、「ヘムライブラ」のロシュ向け輸出やロイヤリティ及びプロフィットシェア収入の増加がこれを上回り、増収増益を想定しています。

Core営業利益(税引後)／純営業資産(NOA)／投下資本利益率(Core ROIC)
(億円／%)



長期的な投資効率を意識した計量マネジメントのため、2019年から長期の財務KPIとしてCore ROIC*5を採用。中外ライフサイエンスパーク横浜などの積極的な戦略投資により純営業資産(NOA) (②)が大きく増加する一方、Core営業利益(税引後) (①)の成長により、Core ROIC (①/②)は2020年に37.3%となりました。

海外売上収益／海外売上収益比率
(億円／%)



自社創製品の成長に伴い、海外売上収益は着実に増加。2020年、COVID-19*6の感染拡大に伴い、「アクテムラ」輸出が大幅に増加。世界売上20億スイスフランを突破し、市場浸透が続く「ヘムライブラ」など、2021年も海外売上収益／比率は上昇する見込みです。

1株当たり配当金／Core配当性向
(円／%)



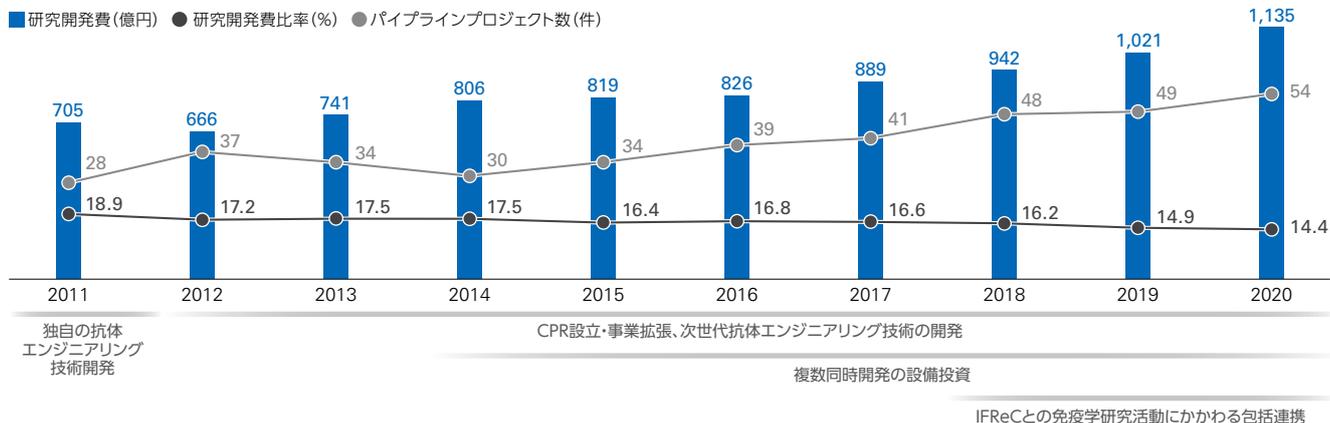
株主還元については、ライフサイエンスやデジタル技術が飛躍的に進化する中、将来の投資機会や資金調達計画を考慮した結果、今後も安定的な配当政策を維持するため、2020年よりCore EPS対比の配当性向の目処をそれまでの「平均して50%」から「平均して45%」に変更しました。

Coreベースでの実績について

IFRS(国際会計基準)への移行を機に、2013年よりCoreベースでの実績を開示しています。Coreベースでの実績とは、IFRSベースでの実績に中外製薬が非経常事項ととらえる事項の調整を行ったもので、ロシュが開示するCoreベースでの実績の概念とも整合しています。中外製薬では、Coreベースでの実績を社内の業績管理、社内外への経常的な収益性の推移の説明、ならびに株主還元をはじめとする成果配分を行う際の指標として使用しています。なお、資産負債およびキャッシュフローの推移にはCoreベースでの実績のような除外事項はありません。

研究・臨床開発・製薬関連

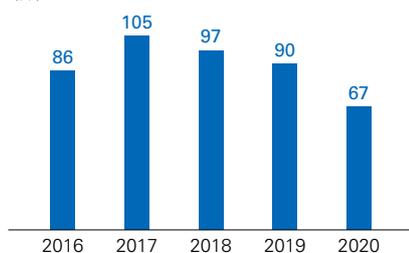
研究開発費／研究開発費比率／パイプラインプロジェクト数



中外製薬は、売上成長とともに研究開発投資を増やし、革新的な医薬品や世界の医療・製薬産業の発展につながる研究成果を創出してきました。また、ロシュとの戦略的アライアンスのもと、早期臨床試験の結果を踏まえてロシュ品の導入を検討・判断できるなど、効率的に成功確率の高い新薬開発を進めてきました。近年は、革新的な抗体エンジニアリング技術を適用した複数の自社創製品が臨床フェーズ入りするな

ど、質・量ともに潤沢なパイプラインを維持しています。今後、中外製薬は価値創造の源泉となる研究・早期開発 (RED: Research and Early Development) に全社の経営資源を集中させることに加え、AI創薬などのデジタル技術の活用や積極的なオープンイノベーションを通じて、創薬アウトプットの飛躍的な拡大を目指します。

研究実績に関する論文・学会発表数*1 (件)



独自の創薬技術を継続的に確立して開発品に適用するとともに、中分子など高難度の薬剤に対しても、課題を克服する製薬技術の開発を進め、競合と差別化できる革新的な医薬品を開発しています。医療全体の発展にも貢献しうる研究成果を連続的に創出し、学会発表や論文投稿を行っていきます。

*1 創薬・製薬関連の合計

新製品発売・適応拡大数／新薬創出等加算品目の売上構成比率 (件／%)



2020年は、自社創製品「エンスプリング」の発売、主力品「テセントリク」「カドサイラ」の適応拡大、FoundationOne CDxのコンパニオン診断の品目追加により、新製品発売・適応拡大数は引き続き高水準となりました。一方、新薬創出等加算品目の売上構成比率は、「アバスチン」の新薬創出等加算の返還を受けて大きく減少しました。

注：市場拡大再算定の対象となった品目(2017年:アバスチン)については、当該年度で新薬創出等加算の対象品の要件を満たしていたため、新薬創出等加算品目としてカウントしていません

エネルギー消費量／従業員1人当たりエネルギー消費量 (1,000 GJ/GJ/人)



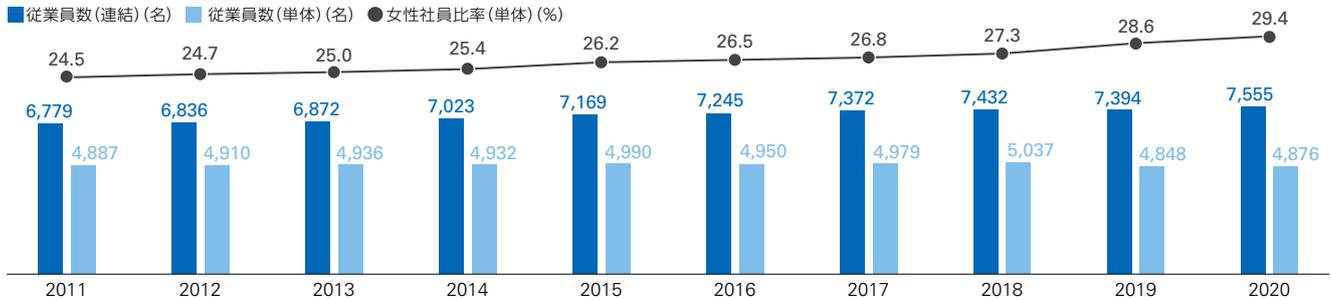
2020年のエネルギー消費量および従業員1人当たりエネルギー消費量は、基準年である2010年比でそれぞれ6%減および17%減でした。目標である従業員1人当たりエネルギー消費量20%削減は未達でしたが、グリーン電力証書の使用により非再生可能エネルギー消費量として20%削減予定です。

*2 中期環境目標の基準年

*3 海外消費量40(1,000 GJ)を含む

人財マネジメント関連

従業員数／女性社員比率



経営人財育成
プログラムの構築・実施

タレントマネジメントシステムの導入

長時間労働削減策の推進

ワークライフシナジー追求の展開

働き方改革の推進

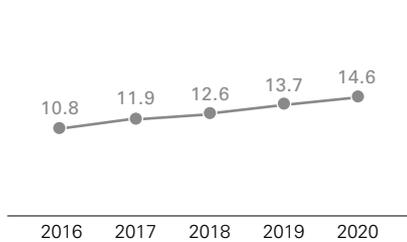
ジェンダー・
ダイバーシティ推進

ダイバーシティ推進室設置

中外製薬では、人事戦略の基本理念として「人財こそが企業の成長・発展を生み出すかけがえのない資産」と考え、性別や国籍を問わず多様な人財の獲得・育成・活用を進めることを基本方針としています。世界の患者さんへ革新的な医薬品を届けるために、当社では、イノベーションや創造性の追求に価値を置いており、「多様な価値観や専門性から革新は生み出される」ことを共通認識として、ダイバーシティ&インクルージョ

ンを人事戦略の一つとして取り組んでいます。2021年1月からはテレワーク勤務制度を導入し、より柔軟性の高い働き方(スマートワーク)を実現することで、生産性向上とワークライフシナジーの両立を目指していきます。今後も、多様な社員一人ひとりが持つ能力を、最大限発揮できる環境整備とイノベーションを生み出す風土醸成に取り組んでいきます。

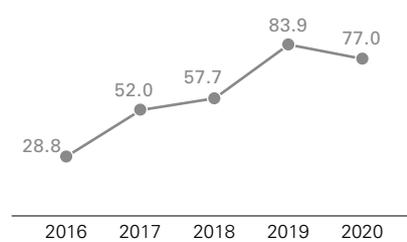
女性管理職比率*4(単体在籍ベース) (%)



女性活躍推進に向けた数値目標として、2023年末に女性管理職比率17%(単体在籍ベース*4)と設定しました。女性管理職比率は上昇傾向にあります。さらなる女性活躍推進を目指し、女性のキャリア形成に向けた施策を展開し、女性リーダーの育成を一層加速させていきます。

*4 管理職に占める比率。中外製薬株式会社(単体)の在籍者に基づいて算出

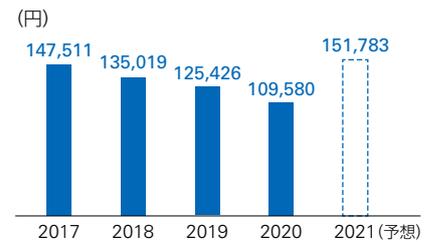
男性の育児休職取得率*5(単体) (%)



ワークライフシナジーの向上に取り組んでいます。2020年の男性育児休職取得率は、在宅勤務や時間単位有給休暇の活用等、働き方の柔軟性の高まりにより、やや下がったものの、近年は増加傾向です。子どもが生まれた男性社員とその上司に、育児休職の制度理解を図るとともに取得の啓発活動を進め、上司向けハンドブックにマネジメントのポイントを紹介することで取得の推進を図っています。

*5 子どもが生まれた男性社員に占める比率

従業員1人当たり教育研修費*6 (単体在籍ベース) (円)



患者中心の高度で持続可能な医療の実現に向けて、革新的医薬品の創出やソリューションの提供など、患者さんに新しい価値を提供できるイノベティブな社員の育成を目指しています。その教育研修体系は、全社教育研修*7と部門別専門教育研修*8から構成され、期待役割に応じたマインド醸成やビジネススキル強化、キャリア開発支援等に加えて、部門別の高度な専門知識・スキルの修得にも力を入れることで、イノベーションを追求する自律的な人財の育成に取り組んでいます。

*6 中外製薬株式会社(単体)の在籍者に基づいて算出(各年1月1日付)

*7 階層別研修、キャリア自律研修、リーダーシップコンピテンシー強化研修、英語研修、次世代経営人財育成研修、自己啓発支援など

*8 部門別の専門知識・スキル強化研修、専門英語研修など

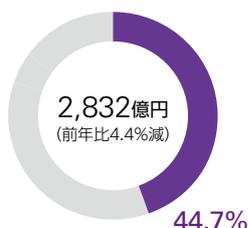
領域別の概況

機会とリスク

2020年の概況

がん領域

製商品売上高および構成比



機会

- がんはアンメットメディカルニーズ*1の代表疾患（日本人の死亡原因第1位）
- がん遺伝子パネル検査の保険償還などによる個別化医療のさらなる進展
- 第3期がん対策推進基本計画によるがんゲノム医療提供体制の推進

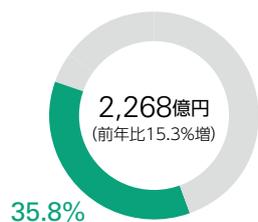
リスク

- 抗PD-1/抗PD-L1抗体をはじめとするがん免疫療法の世界的競争激化
- 主力品の新薬創出等加算の返還
- 大手製薬企業のバイオシミラー*2への参入

国内は、新製品「テセントリク」や主力品「アレセンサ」「パージェタ」が順調に市場浸透したものの、薬価改定および後発品の影響を受けて、「アバスチン」「ハーセプチン」などの売上が減少し、製商品売上高は2,295億円（前年比4.6%減）となりました。自社創製品「アレセンサ」のロシユ向け輸出は、輸出単価下落の影響を受けて430億円（同3.6%減）となったものの、欧米のほか中国を中心に第一選択薬として浸透が進んでいます。海外も含めた製商品売上高は2,832億円（同4.4%減）となりました。

骨・関節領域／自己免疫疾患領域

製商品売上高および構成比*3



機会

- 関節リウマチは生物学的製剤の登場により治療効果が劇的に向上し、治療のゴールが寛解（症状のない状態）に
- 骨粗鬆症の患者数は高齢化とともに年々増加
- 骨粗鬆症における治療率と治療継続率が依然として低いいため、潜在患者数が多い

リスク

- 関節リウマチ市場の世界的な競争激化
- 中長期的な「アクテムラ」の成熟化による成長鈍化
- 骨粗鬆症治療剤「エディロール」に対する後発品の登場

国内は、薬価改定の影響により関節リウマチなどを適応症とする自社創製品「アクテムラ」の売上が減少したことに加え、後発品の影響により自社創製品「エディロール」の売上が大きく減少したことにより、製商品売上高は924億円（同14.8%減）となりました。110カ国以上で承認され、ロシユを通じて販売されている「アクテムラ」の輸出は、新型コロナウイルス肺炎を対象とした臨床試験用等の需要増加を受けて1,320億円（同52.6%増）と大きく増加し、海外も含めた製商品売上高は、2,268億円（同15.3%増）となりました。

腎領域

製商品売上高および構成比



機会

- 厚生労働省の慢性腎臓病（CKD）への取り組み強化による、潜在・未受診患者さんの受診率向上
- 潜在患者さんへの早期治療介入に伴う、腎性貧血治療率の向上
- 腎性貧血は透析期と保存期（透析前）に分けられ、保存期の治療患者さんは年々増加傾向

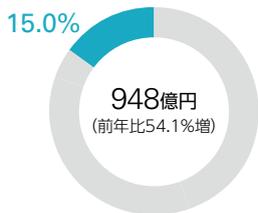
リスク

- 診療報酬改定に伴う血液透析の点数引き下げにより、透析市場の競争激化
- 競合バイオセウムなど後発品による競争環境激化

国内は、薬価改定に加え、後発品の影響などを受け、二次性副甲状腺機能亢進症治療剤「オキサロール」や持続型赤血球造血刺激因子製剤「ミルセラ」の売上が減少し、腎領域の製商品売上高は286億円（同17.3%減）となりました。

神経疾患領域／その他の領域

製商品売上高および構成比



機会

- インヒビターの発生や頻回投与による、血友病Aの方々および介護者の負担が課題
- 神経疾患領域は多岐にわたる病態・症候群があり、アンメットメディカルニーズが非常に高い
- 腎移植の推進にかかわる診療報酬加算で、国内腎移植医療のニーズが高まる
- アトピー性皮膚炎のかゆみは、皮膚炎の悪化に加え、睡眠を妨げることから患者さんのQOL向上が求められる

リスク

- 神経疾患領域は、アンメットメディカルニーズが高い反面、対象となる患者数が少ない可能性

国内は、自社創製品の血友病A治療薬「ヘムライブラ」が、新型コロナウイルス感染症拡大により市場浸透が遅れが見られたものの、売上は341億円（同35.3%増）となりました。抗インフルエンザウイルス剤「タミフル」の通常シーズン向けの売上は8億円（同89.2%減）、行政備蓄向けなどの売上は37億円（同15.6%増）でした。2019年より通常出荷価格での輸出を開始した「ヘムライブラ」のロシユ向け輸出は、246億円（同645.5%増）となり、海外も含めた製商品売上高は948億円（同54.1%増）となりました。

*1 いまだに有効な治療方法がなく、十分に満たされていない医療ニーズ

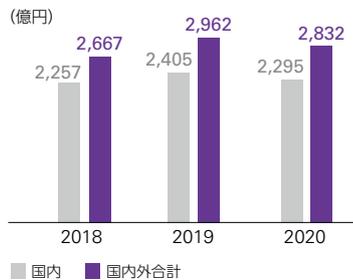
*2 特許期間が満了したバイオ医薬品の後続品で、先発品と同等の品質や有効性・安全性を有する。先行バイオ医薬品の開発メーカーとは異なるメーカーにより製造される

*3 骨・関節領域

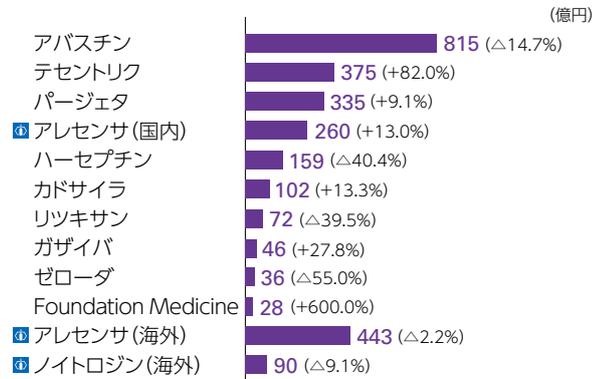
製商品売上高の推移

がん領域

国内売上シェア1位*4



主要製品の売上高



開発品(適応拡大を含む)

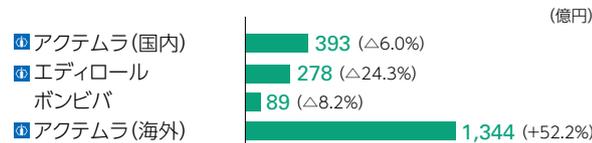
RG7446	④ GC33
RG3502	④ ERY974
RG435	RG7421
RG7596	RG7802
RG7440	RG7828
RG6264	RG6026
④ AF802	④ AMY109
RG6058	④ STA551
RG6171	④ SPYK04
OBP-301	RG6194

骨粗鬆症領域

国内売上シェア1位*4

リウマチ領域

国内売上シェア2位*4



④ ED-71
④ NRD101
RG7880

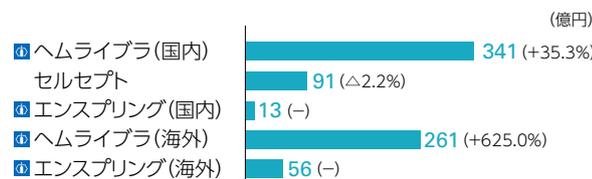
腎領域

国内売上シェア2位*4



④ EOS789

神経疾患領域/その他の領域



④ SA237	④ MRA
RG7916	RG7716
RG1450	④ ACE910
RG6042	④ SKY59
RG7906	④ NXT007
RG7935	④ PCO371
④ GYM329	④ AMY109
RG6100	

*4 Copyright © 2021 IQVIA. 出典: 医薬品市場統計 2020年暦年(1月~12月)をもとに自社分析 無断転載禁止 市場の範囲は中外製薬定義による

④ 自社創製品

新製品開発状況 (2021年2月4日現在)

開発コード(*適応拡大)	オリジン(共同開発)	予定適応症	開発ステージ				
			第I相	第II相	第III相	申請中	承認
がん領域							
RG7446*	ロシュ	肝細胞がん 非小細胞肺がん(アジュバント) 非小細胞肺がん(ネオアジュバント) 非小細胞肺がん(ステージIII/RG6058との併用) 尿路上皮がん 腎細胞がん(アジュバント) 腎細胞がん[二次治療](カボザンチニブとの併用) 早期乳がん 卵巣がん 肝細胞がん(アジュバント) 頭頸部がん(維持療法) 食道がん(RG6058との併用) 膵臓がん(RG1569またはRG6058との併用)					
	ロシュ(武田薬品工業)	腎細胞がん[二次治療](カボザンチニブとの併用)					
	ロシュ	早期乳がん 卵巣がん 肝細胞がん(アジュバント) 頭頸部がん(維持療法) 食道がん(RG6058との併用) 膵臓がん(RG1569またはRG6058との併用)					
RG3502*	ロシュ	乳がん(アジュバント)					
RG435*	ロシュ	肝細胞がん(RG7446との併用) 肝細胞がん(アジュバント/RG7446との併用) 小細胞肺がん(RG7446との併用)					
RG7596	ロシュ	再発または難治性びまん性大細胞型B細胞リンパ腫 びまん性大細胞型B細胞リンパ腫					
RG7440	ロシュ/Array BioPharma	乳がん 前立腺がん					
RG6264	ロシュ	乳がん(配合剤、皮下注)					
AF802/RG7853*	自社(ロシュ)	非小細胞肺がん(アジュバント)					
RG6058	ロシュ	小細胞肺がん(RG7446との併用) 非小細胞肺がん(RG7446との併用) 非小細胞肺がん(ステージIII/RG7446との併用) 食道がん(RG7446との併用)					
RG6171	ロシュ	乳がん					
OBP-301	オンコリスバイオフィーマ	食道がん 肝細胞がん(RG7446およびRG435との併用)					
GC33	自社	肝細胞がん					
ERY974	自社	固形がん					
RG7421	ロシュ/Exelixis	固形がん					
RG7802	ロシュ	固形がん					
RG7828	ロシュ	血液がん					
RG6026	ロシュ	血液がん					
AMY109	自社	固形がん					
STA551	自社	固形がん					
SPYK04	自社	固形がん					
RG6194	ロシュ	固形がん					
骨・関節領域							
ED-71	自社	骨粗鬆症					
NRD101	自社	変形性膝関節症 / 肩関節周囲炎					
自己免疫疾患領域							
RG7880	ロシュ	炎症性腸疾患					
腎領域							
EOS789	自社	高リン血症					
神経疾患領域							
SA237/RG6168	自社(ロシュ)	視神経脊髄炎スペクトラム障害					
RG7916	ロシュ/PTC Therapeutics	脊髄性筋萎縮症					
RG1450	ロシュ/MorphoSys	アルツハイマー病					
RG6042	ロシュ/Ionis Pharmaceuticals	ハンチントン病					
RG7906	ロシュ	統合失調症					
RG7935	ロシュ/Prothena	パーキンソン病					
GYM329/RG6237	自社(ロシュ)	神経筋疾患					
RG6100	ロシュ/AC Immune	アルツハイマー病					
その他の領域							
MRA/RG1569*	自社	新型コロナウイルス肺炎					
RG7716	ロシュ	糖尿病黄斑浮腫 滲出型加齢黄斑変性					
ACE910/RG6013	自社	後天性血友病A					
SKY59/RG6107	自社(ロシュ)	発作性夜間へモグロビン尿症					
NXT007	自社	血友病A					
PCO371	自社	副甲状腺機能低下症					
AMY109	自社	子宮内膜症					

●○○○○ 2020年以降進展が見られたもの

注：各相の臨床試験は、原則として投与の開始をもって試験開始としています

承認/申請時期[申請予定年]	一般名/予定製品名	作用機序など
2020/9 [2022] [2023~] [2023~] [2022] [2022] [2023~] [2021] [2022] [2022] [2022] [2023~]	アテゾリズマブ/テセントリク	改変型抗PD-L1モノクローナル抗体(注射剤)
2020/8 2020/9 [2022] [2023~]	トラスツズマブ エムタンシン/カドサイラ ペパシズマブ/アバスタチン	抗HER2抗体チューブリン重合阻害剤複合体(注射剤) 抗VEGF(血管内皮増殖因子)ヒト化モノクローナル抗体(注射剤)
2020/6 [2021] [2023~] [2022]	ボラツズマブ ベドチン/製品名未定 イパタセルチブ塩酸塩/製品名未定	抗CD79b抗体薬物複合体(注射剤) AKT阻害剤(経口剤)
[2021] [2023~] [2022] [2023~] [2023~] [2023~] [2023~]	トラスツズマブ、ペルツズマブ/製品名未定 アレクチニブ塩酸塩/アレセンサ チラゴルマブ/製品名未定 一般名未定/製品名未定 一般名未定/製品名未定	抗HER2ヒト化モノクローナル抗体 / HER2二量体化阻害ヒト化モノクローナル抗体(注射剤) ALK阻害剤(経口剤) 抗TIGITヒトモノクローナル抗体(注射剤) 選択的エストロゲン受容体分解薬(経口剤) 腫瘍溶解性5型アデノウイルス(注射剤)
	codrituzumab/製品名未定 一般名未定/製品名未定 コビメチニブフマル酸塩/製品名未定 cibisatamab/製品名未定 mosunetuzumab/製品名未定 glofitamab/製品名未定 一般名未定/製品名未定 一般名未定/製品名未定 一般名未定/製品名未定 一般名未定/製品名未定	抗グリピカン3ヒト化モノクローナル抗体(注射剤) 抗グリピカン3/CD3バイスペシフィック抗体(注射剤) MEK阻害剤(経口剤) 抗CEA/CD3バイスペシフィック抗体(注射剤) 抗CD20/CD3バイスペシフィック抗体(注射剤) 抗CD20/CD3バイスペシフィック抗体(注射剤) -(注射剤) 抗CD137アゴニストスイッチ抗体(注射剤) -(経口剤) 抗HER2/CD3バイスペシフィック抗体(注射剤)
2020/12(中国) [2021](中国)	エルデカルシトール/エディロール 精製ヒアルロン酸ナトリウム/スペニール	活性型ビタミンD ₃ 誘導体(経口剤) ヒアルロン酸ナトリウム製剤(注射剤)
	一般名未定/製品名未定 一般名未定/製品名未定	ヒトIL-22融合蛋白(注射剤) -(経口剤)
2020/8(日本/米国) 2019/8(欧州) 2020/10 [2023~] [2023~]	サトラリズマブ/エンスアプリング リスジブラム/製品名未定 ガンテネルマブ/製品名未定 tominersen/製品名未定 ralmitaront/製品名未定 prasinezumab/製品名未定 一般名未定/製品名未定 semorinemab/製品名未定	pH依存的結合性ヒト化抗IL-6レセプターモノクローナル抗体(注射剤) SMN2 スプライシング修飾剤(経口剤) 抗アミロイドベータヒトモノクローナル抗体(注射剤) HTT mRNAに対するアンチセンスオリゴヌクレオチド(注射剤) パーシャルTAAR1アゴニスト(経口剤) 抗α-シヌクレインモノクローナル抗体(注射剤) 抗潜在型ミオスタチンスーパーピンク抗体(注射剤) 抗タウヒト化モノクローナル抗体(注射剤)
[2021](国内)* [2021] [2021] [2022](国内) [2022]	トシリズマブ/アクテムラ ファリシマブ/製品名未定 エミシズマブ/ヘムライブラ クロバリマブ/製品名未定 一般名未定/製品名未定 一般名未定/製品名未定 一般名未定/製品名未定	ヒト化抗ヒトIL-6 レセプターモノクローナル抗体(注射剤) 抗VEGF/Ang2バイスペシフィック抗体(注射剤) 抗factor IXa/XIバイスペシフィック抗体(注射剤) 抗補体C5リサイクリング抗体(注射剤) 抗血液凝固第IXa/X因子バイスペシフィック抗体(注射剤) PTH1受容体アゴニスト(経口剤) -(注射剤)

* ロシュは、海外でアクテムラの新型コロナウイルス肺炎に対する複数の第III相国際共同治験を実施中